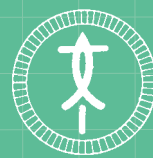


常磐会報



Vol.52
December
2021



堪えるいま、絶えない繋がり

目次

常磐会会長・校長ごあいさつ	2
令和3年度常磐会総会によせて	3
卒業生からのおたより	3~4
恩師からのおたより	5
京都高校の近況報告	6~7
「常磐会報発行協力金」協力者ご芳名	8



※本年度はコロナ禍により総会開催が遅れたため、令和3年9月時点でのご報告内容となります。



ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹
(高校22回生)

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、常磐会の季節となりましたが、皆様ご承知のとおり、昨年来の新型コロナウイルス感染症の状況は今もって予断を許さないものとなっております。

本年度総会実行委員会の皆様は、この非常に制約された、困難な状況の中で、今年も「常磐会の伝統と誇りを未来につなげていく」との思いをしっかりと共有し、総会開催に向け、着々と準備を進めてこられました。本年度総会実行委員会は山中あゆみ実行委員長を中心に、平成元年卒業の高校41回生・定時28回生・平成14年卒業の高校54回生・平成26年卒業の高校66回生の皆様です。実行委員会のご苦労、ご心労は並大抵のものではなかったことと思えます。感謝に堪えません。常磐会員を代表してお礼を申し上げます。

ありがとうございます。総会当日には、可能な範囲内ではありますが、会員一同が笑って再会できることを祈ってやみません。

また、今年も一昨年、昨年と同様に、このような大変な状況下、ご協賛いただいた皆様、変わらぬ皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。総会運営、

現役高校生への援助にと大切に使用していただきます。本当にありがとうございます。

さて、先日、本年度の常磐会役員会が開催され、和田雄二現副会長の会長への推薦が決議されました。本年度総会の承認を得た上で、第14代常磐会会長に就任されることとなります。

常磐会は母校創立とほぼ同時に発足し、今年で105年目を迎えます。卒業会員総数も3万1,000名を超えるまでとなりました。常磐会はその名の通り、永久不変の友情を育むものです。

ここに、私任中にいただいた会員の皆様のあたたかい信頼、友情にあらためて感謝を申し上げます。これからも常磐会の新しい未来へ向け、新会長をお手助けできればと思っています。長い間まことにありがとうございます。

最後になりますが、母校京都高校のますますの躍進と常磐会の更なる発展を祈念して私のご挨拶と致します。



ごあいさつ

校長 土田秀夫

常磐会におかれましては、日頃から温かく母校を見守って頂きながら、皆様方の後輩のために物心両面からのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私自身、京都高校で3年目を迎えることができ、今年度をもってこれ以上ない環境で退職を迎えられることとなり、京都高校には感謝の気持ちしかございません。3年前に赴任して間もなくの頃には、「大きな学校だなあ」と思いながら勤務いたしておりました。その後、時が経つにつれ、「魅力溢れる伝統校」に所属できていることに日々喜びを感じながら過ごしております。昨年度本校では、幾つかの心に残る「嬉しかったこと」がありました。

その中の1つに、「本校への中学生受験倍率が1.27倍であったこと」があります。本校の魅力が中学生に、そして地域に再確認された結果だと、職員一同、大変嬉しく思っております。その時咄嗟に出た気持ちですが、今年5月に校舎看板として完成した「今こそ京都」に繋がっています。

私自身が今感じております本校の魅力は、まず第一に「教育熱心で優秀なスタッフ」次に個々の生徒の力を伸張する「習熟度クラスの設定」、そして同じ漢字の京都大学からの御協力

を頂きながら実施する「2年生希望者30名による京都研修」。この京都研修は常磐会からのご支援も頂いております。この魅力は本校が校外に対して胸を張れる最大のセールスポイントであると自負しております。この魅力につきましては、昨年度私が学区内20校の中学校の校長先生方にお伝えした内容そのものです。

本校の長所は何なのか、また長所だけでなく課題は何なのかを明確にし、それを職員全体で共有して課題解決に向けて取り組んでいることも、今の京都高校の勢いに繋がっています。生徒が頑張ろうと思った時に頑張ることのできる環境づくりを第一に考えて教育に携わることが、職員全体で大切にしています。コロナ禍ではありますが、本校の教育活動が停滞や後退に陥ることなく着実に前進していることを常磐会の皆様方にお伝えいたします。常磐会の皆様方や地域の皆様方のご期待に応えることができるよう今後も精進してまいります。

結びにあたりまして、常磐会の本校へのご支援に対しまして重ねて御礼申し上げますとともに、今後益々のご隆盛を祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

令和3年度

常磐会総会によせて

ごあいさつ



実行委員長

山中 あゆみ

(高校41回生)

発起人であった女子のわたしが常磐会の実行委員長をしぶし引き受けたのは、同級生の男子が誰もやってくれないからでした。

ですが、大変でできついことばかりだと思っていた運営ですが、実行委員のメンバーを集めていく中で、同級生たちが一人一人増えていくと、共通言語「京都体操」の合言葉であり、懐かしさと同じ時間を共有した仲間どうし、当時に戻ったような感覚で楽しい常磐会運営活動となったのです。ふり返ってみると、私は在学中、熱血の山本先生が顧問している陸上部に所属していました。

運動場のトラックを周回しているといろんな音が聞こえてきていましたね。今でもリアルに思い出せます。

野球部のボールが金属バットに当たる音、体育館のバレー部、バスケット部の部員の掛け声、シューズが床をこすれる音、ボールが床に当たってバウンドする音。ひたすら走りながら、苦しいながらもその音たちで励まされていた

のだと思います。

当時は高校生活がどれだけ貴重な時間かわからず、流されるままに無駄に過ごしていたことがいまとなってはとてももったいないことをしたなあ。50歳になり、卒業して32年後に再会した同級生たちと、その時代の貴重な時間を埋めるかのように楽しかった恥ずかしかったことを振り返りながら語り合えるのが、何とも言えない嬉しさでした。常磐会の作業は大変だけれども、高校当時の話が通じるメンバーと語れることが、とにかく楽しかったです。

ということ、実行委員長という大役を無理に押し付けてくれた同級生に感謝です。

それと、サポートしてくれた実行委員のメンバーにはさらに感謝です。

今年度はコロナ禍で一歩先の判断が難しい中で運営を行えたこと、とても勉強になりました。来年はコロナが終息し、新しい風が吹き、新しい気持ちのいい時代がやってくると期待して、関わってくれたすべての方に感謝いたします。

来年は同級生みんなを呼んで集まれるように同窓会を開きたいと思えます。そのときを楽しみにしておいてください。

最後になりましたが、末筆ながら、京都高校と常磐会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

卒業生からのおたより1

「英知・創造・敬愛」

高校41回生 8組 宮尾 昌宏



大学進学を機に地元を離れてから30年余。日々の慌ただしさと高校時代のことを思い出すことはほとんどありませんでしたが、寄稿のお話をいただいたこの機会は京都生活をふり返る良いきっかけになりました。

私は今岡山県で備前焼作家として活動しています。小学生の頃に本で見た備前焼に惹かれたのがすべての始まりでした。中学生の時に電動ロク口を買ってもらい、庭の片隅に小さな登り窯を築きました。京都高校に入ってから、近くの窯元をたびたび訪ねて作陶にのめり込みました。高校卒業後はサラリーマンだった父の勧めで進学しましたが、やはり備前焼への想いが捨てきれず自主卒業。備前市の窯元などで修業をしながら窯焚きや割り木作りのアルバイトをして資金をため、2001年に独立しました。

念願の備前焼作家としての独立でしたが、必ずしも楽しいことばかりではありませんでした。毎日誰かの指示があるわけでもなく出勤日も勤務時間も自由な生活は、楽なようでも自律を必要とするものでした。登り窯の一度の窯焚きには大小

合わせて約2,000点の作品が必要ですが。独自の作品を4か月程作りだめ、窯詰め約10日、窯焚き約10日、冷却と窯出し・手入れに約2週間を要します。その後自宅での「窯出し」や業者への販売、百貨店やギャラリーでの個展で作品を発表し、また作陶。独立以来、年に2回窯を焚いています。作品を創る・生み出すことは苦しくも楽しいことです。しかし1年は1日1日の積み重ねの上しか成立せず、1日は1時間、1時間は1分の積み重ねでしかないことを痛烈に感じました。それを自分の意思だけで続けることの難しさは独立当初から変わりません。

そうして積み上げてきた時間でできた作品が評価をいただき、2006年には300人を超える備前焼作家の中で初めて日本伝統工芸展で上位入賞しました。こうした評価を様々なところでいただくことで随分と背中を押して貰ったように思います。

独立から今年でちょうど20年になります。作家として続けられている原点がどこだっただろうと考えたとき、京都の規律を重んじた経験と重なりました。自らを律し考え創造する力は、知らないうちに自分の力となっていました。数百年続く備前焼の伝統も先人が積み上げてくれたからこそ。先人を敬い知をもつて新たな伝統を創っていきけるよう、今まで通り「英知・創造・敬愛」を積み重ねていきます。

卒業生からの
おたより2

「京都を名に負う先輩方と」

高校41回生 2組 島本 直美 (旧姓 下川部)



♪京都を名に負う、学びの窓に、常磐の契りを結べる友よ♪
デイサービスセンターの送迎車。今日も後部座席から、京都女学校の校歌が聞こえてくる。

デイサービスセンターでは、1日30人近く延べ100人近くの高齢者の方々が、入浴や食事、機能訓練やレクリエーション等のサービスを利用している。私たちスタッフは、日々の会話の中で、利用者様からこれまでの人生体験を聞くことにより様々な情報を得ている。縫物が趣味だった方なら、手作業の作品作りを勧めてみようか、猫を飼っていた方なら、不機嫌な時は猫の話を振ってみよう等々。驚くのは多くの方が子どもの頃や学生時代のことを鮮明に語ってくださるのだ。京都女学校出身の方なら、全員が、何回生かまで即座に答えてくださるのだ。91歳同士がデイサービスで会い、同級生だと判明したこともあった。何と、一人がもう一人の顔を覚えていたとのこと！本当に驚かされる。

「私は長井から京都に通ったよ。父が自転車屋のおいちゃんと仲良く、とお願ひして自転車を買ってくれた。みんなが歩いて行きよるんから後ろから抜かすのが申し訳ないでねえ、帰りは自転車を押してみんな歩いて帰って父に叱られたよ。」
「禁止されとった小倉の映画館で

ばったり先生と会ってねえ、怒られる、と思つたら先生が「妹がお世話になっております、とか言わんか」って笑って許してくれたんよ。」
「生徒動員で、博多で1年間飛行機の部品を作りよったんよ。他の女学校の友達が出来て、大変やつたけど楽しかったねえ。英語の勉強が出来んやつたことが今でも悔しいねえ。」
何度も同じ話を、まるで昨日のことのように繰り返すその表情は輝き、京都女学校へ通つた誇りに満ち溢れている。

一方、高校時代は虚しく、何の意味もなかったと感じていた私。だが、高校卒業後短大で社会福祉を学んだことが今の人生に繋がっていることに改めて気付かされた。
「高校の時に初めて彼氏が出来てねー！どどんと成績が下がったんちやどねー。まあ、今のだんなさんなんやけど。」
「フオーク同好会に入つとってねー、レベッカのコピーバンドしよつたんよ。到津遊園地のステージで演奏したなあ。」
「修学旅行のスキーで、止まりきらんで前の人に突っ込んでねー。おかんに公衆電話で足が痛いつてゆつたら、もつたいないけ滑つて帰りよつて言われて次の日も滑つたんよ。でも帰つて病院行つたら軟帯痛めて速攻松葉杖よー。超恥ずかしかった。」
何十年か後、私もこんな話を誰かに繰り返すのだろうか。よかつた。話すことあるじゃん私。無意味では決してなかつた。

さあ今日も、風薫る中、精一杯笑つて生きよう。京都の名を負つた人生の先輩たち。

卒業生からの
おたより3

物理はイメージ！
未来もイメージ!!

高校54回生 3組 椋本 俊輔



いつか伊藤先生に言われた言葉「京都高校にはしっかりと力をつけてから戻ってきなさい」を思い出し、とても緊張して迎えた京都高校勤務初日。見慣れた校門、見慣れた校舎、見慣れた廊下、そしてあまり見慣れていなかった職員室。校長先生以外では知らない先生かと思つていたら、そこには仲江先生、伊藤先生、栞谷先生、松川先生、お世話になった先生方がたくさんいらっしゃいました。数えてみると、私が京都高校を卒業してから19年も経ち、年齢も倍になっていました。先生方は昔と変わらない雰囲気のまままでびつくりしました。

いつか伊藤先生に言われた言葉「京都高校にはしっかりと力をつけてから戻ってきなさい」を思い出し、とても緊張して迎えた京都高校勤務初日。

「私は長井から京都に通ったよ。父が自転車屋のおいちゃんと仲良く、とお願ひして自転車を買ってくれた。みんなが歩いて行きよるんから後ろから抜かすのが申し訳ないでねえ、帰りは自転車を押してみんな歩いて帰って父に叱られたよ。」
「禁止されとった小倉の映画館で

て頑張っています。京都高校の教員となつて感じたことは、生徒が将来の自分をイメージできてないということでした。なんとなく看護師になりたいとか、公務員になりたいとかの夢があつても、具体的にどうやってそれを実現するか、1年後、2年後、5年後、10年後のイメージが足りないなと思います。イメージのためには、いろいろな経験や、体験が元になってくるので、授業だけでなく、様々な場面での体験活動や、思考力の育成をしていくことが重要です。私も物理の授業では、いろいろな現象を実際に見せたり、考えさせたりして、生徒のイメージを向上させ、京都高校に貢献していきたいと思えます。

卒業生からの
おたより4

京都高校で過ごした日々

高校66回生 2組 尾形 峻

今回の執筆にあたり、私が京都高校を卒業して、7年という月日が経過していることに改めて気付かされている今日この頃です。
歳をとつたなあと感じると同時に卒業したのが7年も前のこととは思えないぐらい、京都高校で過ごした日々は鮮明に私の記憶の中に刻まれています。

中学生の頃の学力が京都高校入学ラインギリギリだったこと

「修学旅行一日延びる」「物理選択者ピリヤードにはまる」「リスニングの時間に宇多田ヒカル流れる」「ホークスが負ける」と機嫌が悪い先生「休日山登りに連れていかれる友人」などたくさんありました。これからは京都高校での思い出をたくさん作っていこうと思います。

恩師からの
おたより1

41回生のみなさんへ

41回生 3年1組担任
鳥田幸雄 先生



41回生のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか。コロナ禍で大きく社会が変化している最中ですが、ご苦労されている方も多いのではないかと思います。明けない夜はないという言葉を信じて、お互いにこの苦境を乗り越えていきましょう。

そういえば、みなさんが高校時代を過ごした1986年から3年間も大きな変化のあった時期でした。それまで当たり前のように、そしてこれからも続くように考えていた「昭和」という時代が終わりを告げたのが、みなさんが卒業も間近に迫った1月のことでした。前年度後半から世の中がざわつき始め、不安な日々が続いたことを今でも思い出します。

そんな中でも努力を重ね、変化をものともせず乗り越えていったみなさんです。今、今の苦境も、これからやってくる社会変革の波にも、必ず立ち向かい、乗り越えていくことができることを確信しています。

思い起こせば私も初めての3年生担任ということ、何ごとも手探りで、自分の未熟さを痛感しながら日々を過ごしていました。みなさんや先輩の諸先生方に支えられ、助けられ、励まされ、鍛えられてい

恩師からの
おたより2

41回生の皆さんへ

41回生 3年5組担任
香田芳彦 先生

令和3年度常磐会総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、当番幹事として準備に携わってこられた皆様方のご苦労に対し、敬意と謝意を表します。

第41回生(平成元年3月卒業)の皆さん、元氣にお過ごしですか。卒業以来30年以上がたち、皆それぞれ立場で活躍されていることと思っています。この原稿依頼が来て、私自身も卒業アルバムや校友会誌を見返して、皆さんが在籍した3年間に思い出し、大変懐かしさを感じています。

当時私は、前年の昭和60年度に新規採用教員として赴任し、皆さんを1年次より3年間担任させてもらいました。1年3組が3学期最初の日までの181日間、にわたり無欠席を続けたことはとても印象深く覚えています。

その年度末の3月に結婚もいたしました。ちなみに妻(当時の養護教諭、有山由美)は令和元年度で定年退職し、現在は晴耕雨読の日々。晴れた日は家で花や野菜作りに忙しかたく奮闘しています。

41回生は私にとって教員人生初めての卒業生でした。学年回の中には私と同じく前年に新採教員として赴任した2人も含まれていました。学年主任の中川先生



恩師からの
おたより3

卒業生がんばれ!!

41回生 3年6組担任
藤永義香 先生



常磐会総会が盛大に開催されますこと、心よりお喜び申し上げます。又毎日の様にコロナ報道がなされ大変な時期に当たる当番回生の皆様により敬意を表します。

現在77歳で、毎日を集落の皆様と協力し農業に精を出しています。去年の11月よりチェーンソーを持ち出して水田廻りの樹木を切り倒し焼却する仕事をやっていました。中山間地では30年もたつと木々は太くなり、ラジコン・ヘリが飛ばず水田の消毒ができず、来る日も来る日も切り倒し燃やす毎日でした。

燃やしながらか九重のキャンブファイヤーを思い出し手元の校友会誌を見ては楽しんでいきます。毎日が天気予報にとらめつか。あるいはロープ使用しトラクターで、樹木の倒す方向、風の向きに気を使い毎日がビクビクでしたが終了しやれやれです。

コロナにより大変な時代が訪れる兆しです。社会の在り方、仕事、若人の学習方法、等々が様変わりとなるでしょう。コロナにより世界中が経済を中心に振り回されており、我々の身のまわりの行事が中止、延期となり先々が心配でなりません。50歳を迎え一段とギアを入れて社会へ京都高校の名をおしあげてください。先日大見君、水田君より連絡を受け原稿を書きながら手元の校友会誌4号を見て懐かしくも、卒業生諸君へ無理難題

を言い、大変申し訳ないと深く反省しながら再度校友会誌に目を通していただきます。クラス担任をした年齢が50歳前でちょうど同じくらいだと思います。まず健康でいてください。身体の変化が始まります。頭の中で思う事と体の動きが一致せず「あれ」と思う事が度々あります。廻りからは信頼される年齢となり地区の仕事、自治会長、町内会長、次々と廻つて来ます。私も体調を崩し長く手伝わっていた文化財を守る会の事務局の仕事も辞めています。年に2回ほど小学生へ故郷の説明、神社、お寺等を説明しています。各自が自分の目標に向かって挑戦し努力して校歌にある様に、「若人われら躍進の我が母校」とある様に前へと進み、現代社会に役立つ人になってください。

今私は月2回、日田へてん刻の勉強へ夜出かけています。年間5回ほど作品展があり気力は充実していますが、今一歩というところ



部活動活動状況

●**主な戦績** *令和2年4月～令和3年3月までの期間での県大会以上
新型コロナウイルス感染症の影響で県大会以上が中止になった大会等も含んでいます

《体育部》

陸上部

- 福岡県高校新人陸上競技対抗選手権大会
県大会出場 男子やり投げ 1名（北部ブロック4位）

バスケットボール部

- 福岡県高校バスケットボール新人大会
県大会 男子（北部ブロック7位）
県大会 女子（北部ブロック5位）

卓球部

- 福岡県高校卓球新人大会
県大会出場 女子個人 1名（北部ブロックベスト16）
県大会出場 女子団体（北部ブロック6位）

テニス部

- 福岡県高校テニス新人大会
県大会出場 男子団体（北部ブロック3位）

サッカー部

- 福岡県高校サッカー新人大会
県大会2回戦 男子（北部第7代表）

水泳部

- 福岡県高校水泳新人大会
九州大会 男子50m平泳ぎ1名（県予選2位）

空手部

- 福岡県高校空手道新人大会
県大会出場 女子個人型2名（北部・筑豊ブロック3位）

《文化部》

囲碁・将棋部

- 福岡県高文連将棋新人大会
県予選3位 男子1名

書道部

- 福岡県高校総合文化祭 書道部門
秀作 女子1名

美術部

- 福岡県高校総合文化祭 美術・工芸部門
特選 女子1名

吹奏楽部

- 福岡県アンサンブルコンテスト
金賞
- ◎全九州アンサンブルコンテスト
出場

放送部

- 福岡県高校総合文化祭放送コンテスト大会
県大会出場 朗読部門 女子1名（北九州地区入賞）

写真部

- 福岡県高校総合文化祭 写真部門
県大会特選 女子1名

●令和3年度 部活動加入

文化部		学年	全学年		
			男子	女子	計
1	演劇		0	2	2
2	華道		0	5	5
3	琴曲		0	6	6
4	コ－ラス		0	2	2
5	茶道		0	6	6
6	写真		4	12	16
7	囲碁・将棋		9	2	11
8	書道		0	7	7
9	放送		1	8	9
10	煎茶		0	0	0
11	文芸		1	7	8
12	美術		2	9	11
13	吹奏楽		9	36	45
14	料理		0	19	19
15	英語（ESS）		1	6	7
16	SG		0	9	9
17	科学同好会		2	0	2
① 小計			29	136	165
生徒数			366	424	790
加入率			7.9	32.1	20.9

体育部		学年	全学年		
			男子	女子	計
1	バレーボール		18	15	33
2	バスケットボール		28	24	52
3	野球		23	4	27
4	テニス		10	8	18
5	陸上		20	8	28
6	柔道		0	0	0
7	剣道		6	3	9
8	サッカー		30	2	32
9	バドミントン		22	21	43
10	バトンス		0	17	17
			1	35	36
11	水泳		6	1	7
12	卓球		2	10	12
13	空手道		1	3	4
14	レスリング同好会		0	0	0
② 小計			167	151	318
生徒数			366	424	790
加入率			45.6	35.6	40.3

部活動 合計		学年	全学年		
			男子	女子	計
①+② 総合計			196	287	483
生徒数			366	424	790
加入率			53.6	67.7	61.1

初めに、令和2年度の生徒の進路状況をご紹介します。令和2年度は、四年修了生の十三名が卒業しました。在学中の仕事を継続している生徒もいますが、新規就職者が三名、進学者が三名でした。

次に、令和2年度の特徴ある行事・活動をご紹介します。

九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に本校からは二年生一名、一年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、優良賞を受賞しました。

文化部関係では、行橋市人権週間啓発作品（書道の部）では、二年生一名が優秀賞、二名が入選となりました。高文連書道部門授業作品展においても三年生三名が入選しました。

体育部関係では、大会には出場しませんが、放課後の短い活動時間を有効に使って技術を高めています。

本年度は、新入生十一名を迎え、全校五十四名の生徒数でスタートしました。生徒たちは、仕事に勉強に全力で励んでいます。



令和2年度 国公立大学合格者数(既卒生を含む)

設立	大学	学部	人数	設立	大学	学部	人数
国立	北海道大学	総合系	1	公立	金沢美術工芸大学	美術工芸学部	1
	広島大学	工学部	2		神戸市外国語大学	外国語学部	1
	山口大学	経済学部	5		公立鳥取環境大学	環境学部	1
		医学部	1		島根県立大学	地域政策学部	1
		理学部	1		広島市立大学	情報科学部	2
	愛媛大学	工学部	8		尾道市立大学	芸術文化学部	1
		法文学部	1		高知工科大学	環境理工学群	1
	九州大学	理学部	1		山口県立大学	看護栄養学部	1
		文学部	1			国際文化学部	3
		経済学部	2			工学部	3
	九州工業大学	工学部	1		山口東京理科大学	工学部	7
		工学部	4		下関市立大学	経済学部	4
	福岡教育大学	情報工学部	4		北九州市立大学	外国語学部	3
		教育学部	7			文学部	1
	佐賀大学	医学部	1		経済学部	1	
		理工学部	1		国際環境工学部	4	
	長崎大学	医学部	1		地域創生学群	1	
		工学部	3		九州歯科大学	歯学部	1
		多文化社会学部	1			看護学部	2
	熊本大学	文学部	2		福岡県立大学	人間社会学部	6
理学部		2	福岡女子大学	国際文理学部	1		
大分大学	工学部	1	長崎県立大学	経営学部	1		
	経済学部	1		国際社会学部	1		
宮崎大学	理工学部	4	熊本県立大学	情報システム学部	1		
	農学部	2		総合管理学部	3		
鹿児島大学	法文学部	1	大分県立看護科学大学	看護学部	2		
	農学部	2					
鹿屋体育大学	体育学部	1					
琉球大学	工学部	1					

令和2年度 私立大学合格者数(既卒生を含む)

大学	人数	大学	人数	大学	人数
九州産業大学	36	産業医科大学	4	帝京大学	1
福岡大学	32	立命館大学	3	東京工科大学	1
西日本工業大学	31	筑紫学園大学	3	東京国際大学	1
福岡工業大学	30	日本赤十字九州国際看護大学	3	駒澤大学	1
西南学院大学	16	福岡女学院看護大学	3	日本大学	1
名古屋外国語大学	15	別府大学	3	愛知大学	1
九州栄養福祉大学	12	立命館アジア太平洋大学	3	川崎医療福祉大学	1
近畿大学	8	明治大学	2	広島女学院大学	1
西南学院大学	8	神奈川工科大学	2	安田女子大学	1
九州共立大学	7	広島国際大学	2	福山大学	1
久留米大学	7	広島修道大学	2	東亜大学	1
福岡女学院大学	7	久留米工業大学	2	梅光学院大学	1
岡山理科大学	6	中村学園大学	2	松山大学	1
九州国際大学	6	熊本保健科学大学	2	福岡国際医療福祉大学	1
第一薬科大学	6	日本文理大学	2	活水女子大学	1
九州女子大学	5	仙台大学	1	長崎国際大学	1
純真学園大学	5	金沢星稜大学	1	鎮西学院大学	1
東海大学	4	国際医療福祉大学	1	崇城大学	1
同志社大学	4	中央大学	1	鹿児島国際大学	1

上級学校合格状況・就職状況

令和2年度	現役	既卒	合計
国立大学	58	6	64
公立大学	52	2	54
私立大学	268	38	306
文科省管轄外	0	0	0
公立短大	1	0	1
私立短大	8	0	8
各種学校	57	0	57
事務	0	1	1
営業	0	1	1
技能	1	4	5
公務員	1	4	5
合計	1	0	1



令和2年度
進路概況

進路指導主任 石松 久美

昨年度は入試改革元年でした。一般入試は「一般選抜」、推薦入試は「学校推薦型選抜」、AO入試は「総合型選抜」へと名称が変更されました。また、大学入試センター試験が大学入学共通テストに変わり、英語リーディングとリスニングの配点が1対1になるなど形式面の変化に加え、内容面では読解量・情報量が増え、思考力重視の出題が多く見られました。さらに、調査書や志願者本人が記載する活動履歴等の資料の活用が増えるなど、主体性等がより評価されるようになりました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態の中で実施され、集団面接・討論等の入試方式を取りやめたり、個人面接をオンライン化したりするなど入試方法の変更が一部の大学で行われました。全国的な受験動向にも影響があり、国際関係学・語学・観光学などコロナの影響が強く出る分野は不人気に、一方、医学・薬学・保健衛生学などは志願者を集めました。さらに、首都圏にある大学の受験が敬遠されたこと、コロナ禍が家計に影響を与え、自宅から通える大学を希望する受験生が増えたことなどから地元志向が強まり、併願校数の減少にもつながったと考えられています。これが、私立大一般選抜の志願者大幅減の要因ともなっています。

今年度の入試についても、コロナ禍の鎮静化次第ではありますが、地元志向や医療関係など資格系統の人氣が続くことが予想されます。また、学校推薦型・総合型の募集枠が年々拡大しており、本校においても学校推薦型・総合型にチャレンジする受験生が多くなる見込みです。今年度の3年生はこれまで、様々な学校行事の中止や延期を余儀なくされてきました。また、対面でのオープンキャンパスは中止が相次ぎ、多くが志望校に足を運べない状況にあります。しかしながら、今できることに全力で取り組み、オンライン等を活用して情報収集を行い、志望動機を確かなものにしていくことであります。全員の希望進路実現に向けて、学校全体で一杯、3年生を支えていく所存です。

事務局より

第13回生(昭和36年卒) 淵上 洋一 様より「後輩諸君に贈る励ましのことば」として心温まる文章をいただきました。誠に感謝申し上げます。

書面の都合により、文章の掲載は控えさせていただきます。内容につきましては、現高校生へ伝えさせていただきます。

*本年度はコロナ禍により総会開催が遅れたため、令和3年9月時点でのご報告内容となります。

「常磐会報発行協力金」協力者ご芳名

令和2年度常磐会報発行にあたってご協力いただいた皆さんのお名前です。ご協力誠にありがとうございました。今後とも引き続き全会員へ常磐会報が発送できますように何卒よろしくお願い申し上げます。

福岡県立京都高等学校同窓会 常磐会

令和3年10月31日現在 敬称は略させていただきます

- 旧職員: 安相 藤原 泰 博... 併置中学校: 山内(田中) 澄子... 工藤(吉田) 法子... 平 原 賢 一... 協 繁 和 敏... 一 樹 人 尚... 古 白 田 野... 賀 川 潤 水... 健 安 正 弘... 一 彦 義 文... 大 加 白 白... 下 藤 川 後... 一 清 君 義... 幸 次 男 之... 高 島(岩田) 静子... 古賀(賀) まゆみ... 弘 藏(梅本) 美代子... 中 川 尚 久... 橋 高 庄 志... 野 口(早川) 舞... 第55回 (平成15年3月卒業) 中 門 田 彩 子... 第56回 (平成16年3月卒業) 西 本 健 志... 山 岡 良 太... 山 野 正 人... 第57回 (平成17年3月卒業) 藤 元 樹 陽... 丹 田 幸 陽... 藤 本 俊 俊... 野 本 宣 昌... 松 本 経 昌... 第44回 (平成4年3月卒業) 原 本 高 太... 横 溝 耕 平... 金 子 雅 三... 白石(佐田) 純子... 第45回 (平成5年3月卒業) 石 田 圭 樹... 竹 野 森 伸... 久 藤 久 子... 第46回 (平成6年3月卒業) 小 野 精 一... 岡 田 正 幸... 渡 辺 利 春... 中 島(部山) 千鶴子... 第47回 (平成7年3月卒業) 崎 田 嘉 寛... 松 尾 直 幸... 村 上 智 彦... 坂 友 智 彦... 第48回 (平成8年3月卒業) 木 戸 博 秋... 神 崎 奈 保... 宮 西 郁 美... 第49回 (平成9年3月卒業) 釘 宮 成 二... 瀨 瀨 博 志... 川 上 裕 由... 山 南 真 由... 森 里 美... 第50回 (平成10年3月卒業) 山 口 裕 平... 鎌 田(柏木) 直子... 新 澤(田中) 知美... 第51回 (平成11年3月卒業) 西 村 嘉 雄... 井 澤 芳 樹... 第52回 (平成12年3月卒業) 永 岡 雅 典... 楠 本 絵 莉... 第53回 (平成13年3月卒業) 早 川 由 彰... 田 川 毅 彦... 第54回 (平成14年3月卒業) 荒 鬼 新 平... 有 益 亨 岳... 正 野 和 司... 第55回 (平成15年3月卒業) 中 門 田 彩 子... 第56回 (平成16年3月卒業) 西 本 健 志... 山 岡 良 太... 山 野 正 人... 第57回 (平成17年3月卒業) 藤 元 樹 陽... 丹 田 幸 陽... 藤 本 俊 俊... 野 本 宣 昌... 松 本 経 昌... 第58回 (平成18年3月卒業) 細 川 早 斗... 水 田 達 哉... 田 田 悠 華... 辻 山 野 彰 子... 第59回 (平成19年3月卒業) 大 石 孝 則... 西 本 龍 司... 船 津 崇 崇... 今 村 は る な... 第60回 (平成20年3月卒業) 小 笠 原 未 紗... 第61回 (平成21年3月卒業) 甲 木 佑 佳... 二 山 美 空... 第62回 (平成22年3月卒業) 渡 邊 未 来... 第63回 (平成23年3月卒業) 田 村 彰 啓... 原 長(原部) 優 香... 二 木 和 沙... 第64回 (平成24年3月卒業) 江 上 愛 一 郎... 大 谷 貴 俊... 第65回 (平成25年3月卒業) 栗 畑 洋 介... 第67回 (平成27年3月卒業) 中 島 弘 喜... 小 笠 蓮... 第68回 (平成28年3月卒業) 安 達 健 一 郎... 大 沢 和 暉... 亀 田 竜 二... 堀 之内 元 太... 第69回 (平成29年3月卒業) 津 村 周 作... 大 谷 優 花... パ ー ス 野 彩 子... 第70回 (平成30年3月卒業) 椎 野 あ ゆ み... 下 村 花 音... 伊 妻 辰 彦... 第71回 (平成31年3月卒業) 末 松 憲 児... 第72回 (令和2年3月卒業) 津 村 珠 里... 京都高等学校